

「脱炭素社会」への挑戦

私たちにできること

地球温暖化による気候変動が懸念される中で「脱炭素」という言葉をよく耳にします。世界でも、地球温暖化への対応として、脱炭素化などカーボンニュートラルを目指す動きが加速しています。加西市では、令和3年2月、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」をしました。そして、プライムプラネットエナジー&ソリューションズ(株)と共同で提案し、令和4年11月には、環境省が2050年カーボンニュートラルの先行モデルとして積極的に支援する「脱炭素先行地域」に選ばれました。そもそも「脱炭素」とは何でしょうか？市民の皆さんに知ってもらうため、社会的な課題に挑戦する加西市の取り組みを紹介します。

問合せ先：環境課 ☎8716

「脱炭素」とは、地球温暖化の要因となる二酸化炭素の排出量を「ゼロ」にしようという取り組みのことです。この二酸化炭素排出量が「実質ゼロ」になった社会のことを「脱炭素社会」といいます。温暖化の加速により、世界全体でも脱炭素に向けた取り組みが加速しています。

◇ 加西市は昔から豊かな自然の中で栄え、また、災害も少なく、その地域資源を活用して発展してきました。今も県天然記念物である、あびき湿原をはじめ貴重な自然が存在しています。このすばらしい環境は何ものにも代えがたく、未来に残していくことが必要なのです。

豊かな自然環境 未来に残す

ご存じのとおり、世界的に地球温暖化の影響が出ています。日本でも、極端な気象やそれに起因する災害、また多くの自然環境が侵され、少なからず私たちの生活にも影響が出てきています。身近な生活においても地球温暖化の原因になる二酸化炭素を排出しています。

加西市でも、実際に農作物に影響が出てきており、農業従事者の頭を悩ませています。夏は夜間気温が下がらず熱帯夜が続くことで、稲では高温障害、ぶどうでは着色不良が発生。冬は暖冬によりスクミリンゴガイの越冬による被害拡大が危惧されています。



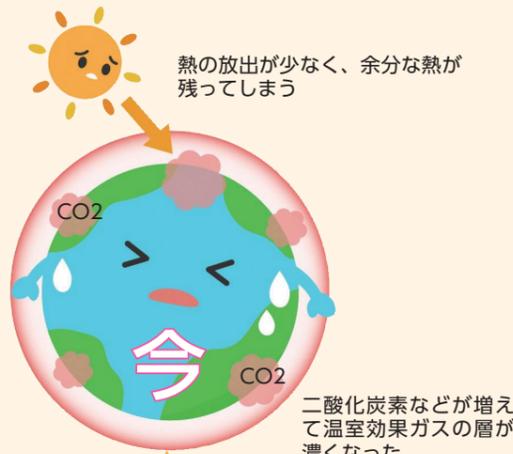
地球温暖化って？

昔は、地球の周りの「温室効果ガス」が、宇宙に逃げていく熱を吸収し、温室のように快適な温度にしてくれていました。しかし、温室効果ガスが増えすぎると、宇宙に熱が逃げなくなり、どんどん地球の気温が上がってしまう。これが地球温暖化です。



工業化が始まるまでは、自然もあり二酸化炭素の排出が少なかった

地球温暖化はなぜ起きる？



交通機関の発達や工業化が進み、二酸化炭素の排出が多い暮らしに

ポイント2 脱炭素を知る3つの言葉

パリ協定	世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より低く保つことを目標とした協定
SDG s	国連加盟国の全会一致で採択された、持続可能でよりよい社会を目指すための国際目標
カーボンニュートラル	二酸化炭素の排出量と吸収量を均衡させて、排出量を実質ゼロにすること

※加西市は令和4年5月、「SDG s 未来都市」に選定されています。

ポイント1 カーボンニュートラルって？

日常生活などで排出される、二酸化炭素などの温室効果ガスの「排出量」から、植物の光合成などで吸収される温室効果ガスの「吸収量」を差し引いて、実質的にゼロにすることです。

なぜそれが重要？

温室効果ガスの影響で兵庫県の年平均気温が100年あたり約1.4℃上昇しています。この状態が続けば、災害のリスクや熱中症などの健康被害の増大など私たちの生活に大きな影響を与えることになるからです。

そこで加西市は？

2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指すことにしました。



温暖化により夏の夜間温度が下がらず、稲では高温障害が、ぶどうは着色不良が起きている。また、暖冬によるスクミリンゴガイの越冬が発生している